

Japan Society of Ski Sciences

# 日本スキー学会 第26回大会 講演論文集

メインテーマ  
スキーの sustainability (持続可能性)  
ー次世代へつなぐスノースポーツー



主 催: 日本スキー学会  
期 日: 2016年3月13日(日)～16日(水)  
会 場: たかみや瑠璃倶楽リゾート・蔵王温泉スキー場

## 基調講演

### ●講演の概要

昨今、世界的に有名になっている「ジャパウ (Jpana Powder)」を有する日本。降雪が有りスキースポーツができる素晴らしい日本の環境の中において、現在日本のウィンタースポーツ人口の減少、そしてスキー産業の低迷は、まだその下降をたどっていると言えます。1990年代の日本経済バブル時には、どこのスキー場も人で溢れていたあの頃と比べると、この20数年間のスキースポーツを取り巻く変貌は本当に寂しいものです。日本経済の流れや、他の余暇休暇を利用する産業やスポーツが、ここまでの減少をしていないことから考えると、このスキースポーツを取り巻く環境に何かが不足していると思われます。インバウンドで日本国内のスキー場の需要が高くなってきている今だからこそ、しっかりと考えなければならない時期であると思います。そして同時に、私たちが愛するこのスキースポーツを次の世代に引き渡すために、またブームに流されない持続可能なスキー環境、スキー産業を再構築していくために、今回は専門家の皆さんと一緒に考えていきたいと思っている次第です。さて、私はこれまで人生、色々な経験と共にスキースポーツに関わってきました。子どもの頃のレクリエーションスキーから始まり、競技スキーではスキースポーツ先進国のヨーロッパに身を置きながら世界大会まで経験ができました。国内では基礎スキーというジャンルも経験し、20年弱のナショナルデモンストレーターという立場での活動と世界に希にみるスキー技術選大会という競技も経験しました。また地上波テレビのスキー番組にも出演する機会を得て、時には芸能人のように扱いをされ、世の中に名前を広げて頂きました。国内外のスキー場においても観光ガイド約としてお客様をお連れし、国内外のスキー場と観光地をお客様目線で見ることができました。そしてジュニア選手のコーチとして後身も育成し、同時に2人の息子の保護者としてもスキースポーツ、またスキー産業を見させて頂いています。尚現在は、ウィンタースポーツを1つの産業としている観光地で事業を営む傍ら、全国に店舗を持つスキー専門店のアドバイザーとして全国のスキーヤーとも接し、リアルなマーケティングも行えております。このように個人的ではありますが、多角的な経験と視点から私が思う次世代に繋げられる持続可能なスキースポーツ環境を築くポイントは、「透明性」と「社会性」そして「創造性」だと考えています。



「透明性」とは、現在の環境は、一般の方々や企業や組織が、このスキースポーツや産業に入ってきて頂くためのあまりにも閉鎖的で視界の悪い環境であると感じておりますので、これからは硝子の部屋のような透明感と、そして誰にでもわかりやすい環境の整備が必要であると考えます。「社会性」という点においては、スキースポーツ

をすることで社会的に貢献できることでなければいけないと思っています。特に現代のコンプライアンスが重視される世の中では、このことが大きな課題であると同時に、私たちの考え方や行動によって自らの立場で作っていくこと。そして同時に評価をされることが重要であると考えております。「創造性」という部分では、この 20 数年間にネットやスマートフォン、SNS やクラウドなどのように大きな変化がある時代に対応できていないことに対し、順応する環境を整える以上に、それらの環境を越えるスキースポーツの重要性を創造していくことが重要であると考えております。いずれにしても、私たちスキースポーツに関わる内部からの発信を主に、持続可能なスキー環境を次の世代に残していくことが大切であると考えます。

## シンポジウム

### スキーの sustainability サステナビリティ（継続可能性）

～次世代へつなぐスノースポーツ～

レジャー白書によると 1993 年には 2000 万人に迫っていたスキー・スノーボード人口が 2012 年には 1000 万人を大きく下回りました。2016 年現在もその減少傾向に歯止めがかかっていないのが現状です。これまでは、日本人の生活にとってスノースポーツが、生活必需品ではなく嗜好品としての価値しか持っていなかったのではないのでしょうか。今後この嗜好品としてのスノースポーツが、生活を豊かにするための必需品としての価値を持つためには何が必要かについて多角的に考えてみたいと思います。

#### コーディネーター・指定論者 三浦 哲

（新潟県健康づくり・スポーツセンター）

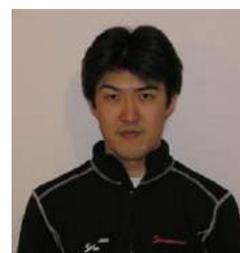
専門 動作の習熟のバイオメカニクス、体力の発達の科学

山形大学教育学部卒業

北海道教育大学大学院修士課程修了

兵庫教育大学連合大学院(上越教育大学配属)博士課程単位取得退学

日本スキー学会 理事



#### 司会 伊東 秀人

山形県出身（元全日本スキー連盟ナショナルデモンストレーター）

#### ●経歴

- ・1966年4月9日生まれ 山形県山形市蔵王温泉出身
- ・1985年 フランススキー留学（フランスナショナルチーム合流）～1987
- ・1993年 フランス国立スキー登山学校入校 国家スキー検定教師取得
- ・1994年 全日本ナショナルデモンストレーター認定
- ・2010年 ZAO S4 スキーチーム理事 ・2011年 有限会社ぼくのうち代表取締役就任



#### ●主な競技成績や指導歴、指導者資格

- ・アジア冬季大会 銀メダル・全日本スキー選手権大会 優勝
- ・世界スキー選手権大会 22位・全日本スキー技術選手権大会 5位
- ・フランス国家スキー検定教師、SAJ 正指導員、A級検定員、A級セッター
- ・「基礎スキーの観点から」

シンポジスト 庄司克史  
宮城県出身（プロスキーヤー）



■経歴

1967年（昭和42年）2月6日 白石（宮城県仙台市）出身

- ・三浦雄一郎スキースクールに弟子入り
- ・日本人として初めてUSワールドモーグルツアーに参戦

主な競技成績及び指導歴

- ・1994 天山山脈世界初5000mからのヘリスキーチャレンジし、前人未到の山を世界初の滑走に成功
- ・1996 赤道直下の国南米エクアドル5897m 6300mの最高峰を登頂&スキー滑走に成功
- ・2000 カムチャッカ半島、ムトノフスキー火山帯（3000m～4000m）スキー滑降
- ・「こどもとスキーの観点から」

シンポジスト 岡崎 彌平治  
山形県出身（蔵王温泉で300年続く高見屋、十六代目当主）

■経歴

1956年生まれ 蔵王温泉（山形県山形市）出身

1978年 玉川大学 文学部英米文学科 商業貿易専攻

1999年 タカミヤホテルグループの社長に就任

- ・「スキーリゾートの観点から」



シンポジスト 木村 公宣  
青森県出身（アルペンスキー指導者、元アルペンスキー選手）

■経歴

1970年（昭和42年）10月24日 弘前市（青森県）出身

- ・15歳からナショナルチーム入り
- ・冬季オリンピック4大会に出場

主な競技成績及び指導歴

- ・1991年冬季ユニバーシアード回転で日本人初優勝
- ・1992年のアルベールビルオリンピックでは総合15位、スーパーG33位、大回転21位
- ・1994年リレハンメルオリンピックスーパーG33位、大回転26位、回転18位
- ・「アルペンスキーオリンピック競技の観点から」

